

がん対策推進企業アクション 女性のがん対策活動 "Working RIBBON(W RIBBON)"

「乳がん・子宮頸がん検診80%チャレンジ」 Working RIBBONオフィシャルサポーターによる 2023年度 優良企業インタビュー Vol.2

さくら薬局グループ クラフト株式会社 (東京都千代田区)

『ピンクリボン活動継続による

受診率向上と意識改革』

■事業内容 保険薬局における調剤業務

■企業概要

東京都千代田区丸の内1-1-1 パレスビル10階

平均年齢 42.2歳

2023年3月時点全従業員:6,218名 (アルバイトスタッフ含む) 2022年被保険者女性従業員:3,678名(全社員のうち85.5%)

2022年の乳がん検診受診率:61.2% 2022年の子宮頸がん検診受診率:54.1%

※2年に1回の検診推奨(厚生労働省指針)



コーポレートサイト https://www.kraft-net.co.jp/



■がん対策推進担当者 採用・研修部 課長 緒方直美様

■インタビュアー 株式会社ベアーズ 取締役副社長 高橋ゆき様 (がん対策推進企業アクション Working RIBBONオフィシャルサポーター)



左から緒方様、高橋様

■取り組みインタビュー



高橋様(オフィシャルサポーター)

オフィシャルサポーター 高橋様 (以下高橋様)

今日、御社にはピンクリボン活動の内容に ついてお伺いしていきますが、 この『ピンクリボン』というものはいつ頃 から御社の中で存在感を現してこられたので しょうか。

クラフト株式会社 緒方様 (以下緒方様) 2010年に、ピンクリボン活動をやらないか

と得意先の方にお声かけいただいたのがきっ

かけです。そのときは他社の薬局さんと共通のしおりを使い「10月に配ることから始めよう」と着手しました。また弊社は約80%が女性です。若い女性従業員の中で、AYA世代(15~39歳)で乳がんに罹患するケースも見受けられるようになっています。入院や手術となっても上司が男性ですと言いづらい環境や、店舗によっては休みを取りづらい雰囲気もあり、会社全体で乳がん啓発活動にを取り組むようになりました。

高橋様

今、店舗というのはどれぐらいあるのでしょうか。

緒方様

現在、861店舗。アルバイトを含めると6,000人以上が在籍しており、8割が女性です。





高橋様

2010年あたりから御社が本格的に 活動をされてきて、社内の反応は いかがでしたか?

緒方様

大体5年くらい経ってから「今年は どうするの」とか、男性スタッフ からも「もし何かあったら手伝う よ」という声が聞かれるようになり ました。最初はピンクリボンの資材 にお金を使うのはすごく気が引けて、 しばらくはしおりだけで活動しまし た。

緒方様(クラフト株式会社)

お薬手帳に挟むしおりであれば、「患者様にも気づいてもらえてわかりやすい」ですし、 更に我々にとってもプラスの価値になると思ったからです。

男性にもお渡しし「もう少し詳しく教えてほしい」という方には、リーフレットもお渡し ています。

高橋様

そうした新しい活動をするとき、社内理解の獲得など何かしらの障壁があるものだと思い ます。やはりそこに1人でも情熱を持って推進する人がいると、時間がかかっても必ず共 感者が現れるものですね。最初は1枚のしおりだったのが、今となっては御社のメッセー ジ性を示す活動になっていますね。



▲しおり

安心のために



▲ガイドブック

▲リーフレット



緒方様

4年前に、社内用のガイドブックを作成しました。従業員全員が持っています。 男性従業員にも渡して、奥様やお母様にこれを渡して読んでもらえますかとお願いしています。

従業員に配布するピンバッジも2代目で、白衣やスーツにつけるのにピンタイプだと 穴が開いてしまうと女性スタッフからの声があり、クリップ型に変更しました。一部、 男性からはサイズが大きいため恥ずかしいという声もありますが。



▲ピンクリボン活動について

高橋様

いずれにせよ御社は10年以上、この活動を現在に至るまで続けていらっしゃるのですね。

緒方様

今年で14年目です。毎年恒例で、患者様と従業員とそのご家族とでこの時期は 乳がんのことを考える時期としピンクリボン活動をやってきました。 ただお恥ずかしい話になりますが、こうした活動をしているのに弊社は受診率がすご く低いんです。

高橋様

現在の受診率を教えてください。

稍万棣

乳がん検診は61.2%、子宮頸がん検診は54.1%。ピンクリボン活動を始めた2010年頃は、乳がん検診29%、子宮頸がん検診26%とかなり低かったんです。 3年前から、人事部スタッフと一緒に健保組合さんへのヒアリングを始めたのですが、そこで「弊社は、そもそも健康診断の受診率が低い」ことがわかりました。 昨年から管理栄養士が関わり、従業員に対し「特定保健指導」を開始しました。受診を促すチラシや声かけを行っています。



高橋様

自分のことを知る、ということが大事だなって思うんです。自分を知るにしても、きっかけと病院への行きやすさが大切です。病院に行く、という行動に移させてくれるのはすごく重要なことだと思います。それを会社としてやろうと思ったきっかけは、先ほどの「自分だけでなく、近くにいる人たちの体調を心配して」という思いがあると思います。緒方さんが、この活動をやってきてよかったなと思う反応やエピソードはありますか。

緒方様

若い女性スタッフからは検査結果を気にして「今後どうすればいいのか」と相談されたり、 「手術することが決まった」と連絡をくれる者もいました。自分を知ることで、早期発見につ ながっていると感じています。

また、ピンクリボン活動の一環で駅前でチラシ配布の最中に、住民の方から「全く検診に行ってないんだけど、行ったほうがいいですか」と聞かれたりすると、こちらから検診の必要性を説明します。それはすごくやってよかったなと思いますね。

高橋様

従業員満足度や、いらしてくださる患者様へのサービスの一環で始められたとのことですが、 緒方さんがご自身のキャリアが変わっていっても、さくら薬局グループ全員が一丸となってこ のピンクリボンを活動を続けてくださっているのですね。

緒方様

内定式でも「こういう活動をしているんですよ」とピンクリボン活動について紹介し、バッジも渡しました。着用のをお願いはしなかったのですが、入社式に男女問わずバッジをつけて出席してくれた人がいて感激しました。

高橋様

緒方さんはこのピンクリボン活動の中で、ご自身の価値観が変わったり気づきというものは ありましたか。

緒方様

十何年も前から自分のライフワークになってるので、必然的に「これをやらないと」という形になってきています。若いスタッフや医療事務員が、本当に自ら動いてやってくれるようになってよかったです。本社管理職の男性従業員も、しっかりバッジをつけてくれています。

高橋様

ピンクリボンの活動、普及や推進というもの以外で、何か御社の中での取り組みはありますか。

緒方様

全従業員に対し健康診断は無料、また30歳以上の乳がん・子宮頸がん検診も無料で受診可能です。さらには、がん保険は在籍期間中会社負担で加入できます。

ピンクリボンキャンペーン期間中には、薬剤師だけではなく医療事務員も参加できる専門医による社内セミナーを年に一度開催してます。



高橋様

手厚いフォローですね。御社の中でも検診で異常が見つかる方はいるのでしょうか。そこを全部キャッチアップはできるものでしょうか。

緒方様

誰が、というところまでは個人情報なので難しいです。今は、管理職から率先して検診を受けようと声をかけています。上司から「私たちは検診を済ませたので店舗スタッフも受けてきてね」となると、「検診で休みたい」となっても、「いいですよ!」と言いやすくなりますよね。そうした雰囲気づくりは重要視しています。

高橋様

最後にこのピンクリボン活動の記事を読んで、今お話しいただいた緒方さんの活動や 経験に共感し「わが社もぜひ、さくらグループ薬局と同じような活動をしたい」という 人が出てきたとき、どうしたらいいのかなど、なにかひと言ございますか。

緒方様

ひと言でとなると難しいですが、このような取り組みをやってみたいと思う方は、最初は、有志で活動することになりますが、そのうち輪が広がり社内全体で共有できるようになっていくと思います。他社様と連携する機会があれば、そのお考えや取り組みを 伺ってみるのも良いと思いました。



■がん対策推進企業アクションについて

ホームページ: https://www.gankenshin50.mhlw.go.jp/

新規パートナー申請:

https://www.gankenshin50.mhlw.go.jp/about/registration.html

Working RIBBON:

<u>https://www.gankenshin50.mhlw.go.jp/workingribbon/index.html</u>パートナー企業専用eラーニング:

https://www.gankenshin50.mhlw.go.jp/elearning/index.html